

# かたりべ102

豊島区立郷土資料館だより



「さんどよ創作教室」始まりました！

二〇一一年五月から豊島区立郷土資料館では毎月第三土曜日（午前一〇時と午後二時の一日二回各六〇分程度）に「さんどよ創作教室（第二土曜を略した造語、以下さんどよ）」を郷土資料館のエレベータホールで開催しています。さんどよでは豊島区や郷土資料館の展示に関連したモノをテーマに毎回ステンドグラスやモビールなどいろいろなモノを参加者があれこれ考えながら制作します。また、豊島区の郷土・歴史も含めこの教室を通じてより深く豊島区に親しみを持ってもらうことを目的としています。

さて五月二一日（土）に「カラーセロファンでステンドグラスを創ろう！」を開きました。今回は第一回目ということで豊島区の成立の経緯について解説を加えながら豊島区域に実在した七か村（上駒込村・栗鴨村・新田堀之内村・雑司ヶ谷村・下高田村・池袋村・長崎村）の範囲をデザインしたステンドグラスをカラーセロファンで作りました。

改めて説明すると、現在の豊島区域には江戸時代七つの村が存在しました。明治時代に入りおおよそ上駒込村と栗鴨村の東半分で栗鴨町、栗鴨村の西半分と新田堀之内村と池袋村で西栗鴨町、雑司ヶ谷村と下高田村で高田町、最後に長崎村が長崎町となりました。その後、昭和七年一〇月に四町が合併して東京府東京市豊島区となり、昭和一八年七月に東京都豊島区となりました。

第一回の「さんどよ」には近隣の小学生（二年生と四年生）の四人が参加してくれました。アートナイフなど普段使いたない道具を使ったので、カラーセロファンを切りとるのが難しかったようです。それでもあきらめず最後までステンドグラスづくりを楽しんでくれました。

なお、「さんどよ創作教室」は参加自由・無料です（「広報としま」、当館ホームページに掲載）。お気軽にご参加ください。（岡本）



# 一万分一地形図から、豊島区のまちの移り変わりをみてみよう！

## ■「豊島区地域地図」第四集

「東京近傍二万分一地形図」改訂版  
好評販売中！（一冊九〇〇円）

一九九一年に刊行した第四集の「改訂版」を、今年三月に作成しました。

この地図集は、大日本帝国陸地測量部が作成・発行した東京近傍二万分一地形図のうち、最初に作成された①明治四二年（一九〇九）測図、②大正五年（一九一六）第一回修正、③大正二〇年第二回修正、④昭和四年（一九二九）第三回修正・同七年加刷、⑤昭和一二年第四回修正の五枚、および⑥第二次世界大戦後に戦災復興院が編纂し、昭和二二年に日本地形社が発行した地形図、⑦建設省地理調査所発行の昭和三二～三三年第五回修正の計七枚の地形図と、解説パンフレットがセットになっています。

豊島区域は、「早稲田（のち池袋）」の全域と、「三河島」「上野」「王子」「下練馬（のち練馬）」「新井」の一部にまたがっているため、これら六枚の原図を貼り合わせて、豊島区全域が一枚（A1判）に収まるように編集しています。今回の改訂版では、原図をすべて画像データ化し、より鮮明な地図に編集するとともに、

④を昭和七年加刷の地図に変更しました。

これは、昭和四年第三回修正の地図に、昭和七年一月一日に豊島区が成立した際の新しい区・町界と区・町名が藍色で加刷された珍しい地図です。北豊島郡時代の旧四町との比較ができることから、利用者からは使い易いと好評です。

## ■土地の歴史を知る資料として

一万分一地形図は、もともと軍事目的に正式な測量図として作成されたため、等高線や符号（地図記号）などが克明に描かれています。約一〇〇年前の東京近郊農村の姿から、終戦直後の戦災の状況、そして戦後の驚異的な復興ぶりまで、わずか五〇年ほどの間に急激な変貌をとげた豊島区のまちの移り変わりが一目でわかります。一方、戦時中には軍事施設や工場などを隠す「改描」が行われ、地図が作成された時代背景を知ることができ、より深く地図を読み解くことができます。

今年三月一日に発生した東日本大震災による液状化や地盤沈下が各地でみられたため、自分の住んでいる場所が昔どのような土地（地形）だったのか調べに来られる方が増えており、地形図への関心が高まっています。土地の歴史を知る

資料として、学校教育や地域研究に活用していただければと思います。

■池袋西口には畑と池があった  
ところで、郷土資料館がある池袋西口の約一〇〇年前（明治四二年測図）はどんな様子だったのでしょうか（★が当館）。

明治三六年開業の池袋駅の西側には畑が広がり、移転してきたばかりの尋常師範学校（豊島師範学校）がみえます。現在池袋西口公園と東京芸術劇場場内になります。その南側には村境を示す一点鎖線が横に引かれています。上（北）が果鴨村下（南）が高田村になります。その村境付近から下に谷と水田が伸びています。これが雑司が谷を流れる弦巻川の源流になります。地図には湧水池がみえませんが、谷の先端にはかつて「丸池」があり

資料として、学校教育や地域研究に活用していただければと思います。



ました。現在は元池袋史跡公園となり、池袋地名の由来碑や明治四五年にこの地に創立した成蹊学園発祥の碑が建っています。地形図には土地の情報と歴史がぎっしり詰まっています。（横山）

## ★記念講演会のお知らせ★

第四集にご協力いただいた先生を講師に迎え、地形図の基礎知識や説図の面白さと、豊島区内の鉄道と路面電車

の歴史について学びます。  
① 7月23日（土） 午後2時～4時  
「地形図の見かた・楽しみかた」  
講師 清水靖夫氏（財）地図情報センター理事

② 7月30日（土） 午後2時～4時  
「豊島区の鉄道と都電のあゆみ」  
講師 井口悦男氏（帝京大学理事）

◇会場：豊島区立勤労福祉会館 6階  
◇定員：50名（2回とも参加できる方）  
◇テキスト：第四集「改訂版」九〇〇円が必要（当日会場にて購入可）

◇応募方法：往復はがきに、①講座名、②住所、③氏名（ふりがな）、④年齢、⑤電話番号をご記入のうえ、7月12日（必着）までに「〒171-0002 1 豊島区西池袋2-37-4 郷土資料館」へ※応募者多数の場合は抽選。



# セピア色の記憶

## 第26回 路面電車から地下鉄へ

左に示した二枚の写真は、ほぼ同じ地点から撮影した昭和四三（一九六八）年二月三日（松井一彦氏撮影・提供）と現在（二〇一一年六月撮影）のJR巣鴨駅前付近（豊島区巣鴨三丁目）の様子です。地図に示した\*印は撮影地点を、↓印は撮影方向を示しています。

写真全体に広がる大きな道路は国道一七号線（白山通り）で、上の写真に見



られるように、かつては道路の真ん中を都電三五系統（巣鴨（車庫前）―西新橋（田村橋）一丁目）が走っていました。手前の車両の行き先表示板は「西新橋一丁目」、向う側の車両の行き先表示板は「巣鴨」と読めるので、写真左方向が日本橋方面で右方向が板橋方面となります。さて、上写真右側には見慣れない構図のようなものが写っています。これは都営



地下鉄六号線（現三田線）の工事に伴う施設で、参考写真として下に別の角度から撮影されたものを載せました（松井一彦氏撮影・提供）。巣鴨駅と志村駅（現高島平駅）との間で地下鉄が開業するのは昭和四三年二月二十七日のこと、また都電三五系統が廃止になるのは同年の二月二十四日のことです。実は上写真は巣鴨駅前を走る都電の姿としては、最末期のものと言えるでしょう。今から四十年前の何気ない景観写真ですが、じっくり眺めると、そこには《路面電車から



地下鉄へ」という東京都心部固有の公共交通事情やその変遷を読み取ることができそうです。

また、読者の皆さまのなかには、都電の車両よりも「三和銀行」、「たぐぎん」という大きな看板の方に目がいったという方もいらっしゃると思います。ご存じのように、いずれの銀行も、その後の事業譲渡や合併により正式な企業名として現在は残っていません。このように、古い景観写真には、当時の歴史を垣間見ることのできるシーンや、現在に至るまでの道のりを示す情報がたくさん詰まっているのです。



（秋山）



2011年度郷土資料館事業予定 (2011年4月～2012年3月)

展 示	春の収蔵資料展 内容：豊島区の村絵図をながめてみよう。むかしのくらしと家電製品。戦時下のくらしと4.13空襲。番付さまざま。	4月1日～6月22日
	夏の収蔵資料展&第6回新池袋モンパルナス西口まちかど回遊美術館協力展示 内容：「西池袋に居住した水彩画家 荒木茂喜の世界」夏の風物詩、都電と豊島区	7月15日～10月9日
	秋の収蔵資料展 内容：「(仮称) 園芸資料これくしょん」→郷土資料館が所蔵する園芸関係資料(園芸書、浮世絵、植木鉢など)を展示・解説する。	10月22日～1月8日
	冬の収蔵資料展	1月21日～3月31日
講座・講演・見学会など	地域史講座 「[豊島区地域地図] 第四集「東京近傍一万分一地形図」〈改訂版〉の刊行記念講演会」	7月23日、30日(全2回)
	歴史講座「OH!江戸でござる パート3」	11月6日、13日、27日、12月4日(全4回)
	歴史講座 古代史または中世史でテーマを検討中	2月開催予定(全4回予定)
	体験教室「組紐でストラップを作ろう」	開催時期検討中(全2回)
	博物館講座 近隣の地域博物館見学	10月開催予定(全3回)
	創作教室「さんどよ創作教室」	10月を除く、毎月第三土曜日開催(全10回)
刊行物	郷土資料館だより「かたりべ」102号～105号	年4回発行、2000部、無償頒布 6月・9月・12月・3月刊行予定
	研究紀要「生活と文化」第21号付・2010年度年報	2012年3月刊行予定
臨時休館	燻蒸・展示替えおよび資料整理に伴う休館	6月23日～7月14日
	展示替えに伴う休館①	10月10日～10月21日
	展示替えに伴う休館②	1月9日～1月20日
	年末年始の休館	12月28日～1月4日

※都合により事業内容や日程を変更する場合があります。

※事業の詳細は、「広報としま」または当館のホームページで随時お知らせいたします。

※新館開設準備に伴う作業内容によっては、常設展示室のみの開館となる場合があります。あらかじめご了承ください。

編集後記

三月一日午後、東日本を襲った大震災は岩手・宮城・福島・茨城の各県を始めとする東日本一帯に未曾有の大きな爪痕を残しました。犠牲となった方々に衷心から哀悼の意を捧げるとともに、被災された皆さんに心からお見舞い申し上げたいと思います。

当館は、展示資料などに若干の被害はありましたが、大事には至りませんでした。しかし、地域の文化財を護る責任の重さに、改めて身の引き締まる思いでいます。

さて、六月二三日から七月一四日まで、収蔵資料の燻蒸および展示替えのため臨時休館いたします。ご利用の方々にはご不便をおかけしますが、どうかご容赦下さい。(は)

かたりべ  
No.102

2011年6月30日

豊島区立郷土資料館

東京都豊島区西池袋2-37-4  
豊島区立勤労福祉会館7階

電話 03-3980-2351

URL: <http://www.city.toshima.lg.jp/bunka/shiryokan/>